

まんが家直伝！
達人の技で、まんがが
どんどん上手くなる！

達人に聞け

永久保存版 達人スゴ技集 ~2022年上半期~

まんがの達人に、そのテクニックを直撃取材する“達人に聞け!!”。今号はスペシャル総集編！ 2022年1号から15号までに登場してくれた先生たちの匠の技から、選りすぐりの“スゴ技”を集めました。これさえ読めば、あなたのまんががレベルアップ！ 永久保存版の企画です!!



白目+瞳孔を開く
恐怖と怒りを表現

通常目
白黒の配色、瞳孔と
光彩のバランスが絶妙。



光が少なく荒いカケアミ
目の輝きのなさで感情の喪失
を表現。荒い線に、無理して
笑っているのがわかる。

きらめく光を入れる
喜びと驚きを表現



瞳孔がっ開き
プチギレ！
線をラ
フにすることでギャ
グっぽく。

揺れる描線
輪郭や光彩などの描線の揺れ
は、そのままうんで揺れる
目を表現。

映像演出での演技にあたるキャラの表情。表情の中でも、特に目は重要なパーツです。佐野愛莉先生の「仁義なき構取り」を見てみれば、目の表現のバリエーションの多さに驚き！「線の揺れやトーン、黒と白のバランス、光の位置を変えるだけで表情は変わります」。

演出の達人 スゴ技

目の表現でキャラの感情が伝わる

佐野愛莉先生(2022年7号より)

その3 演出編

コマ割りや構図、キャラの表情、仕上げなどの演出でガラリと変わる物語。作品の出来を左右する“演出”のポイントは？

演出の達人 スゴ技

演出では、光と影の使い方がかなり重要になってきますが、「魔法陣クロノカノン」のくまがい杏子先生は視線誘導のために「影」を使います。



たとえばこのコマ。「刃乃の姿を目立たせるため、下部に大きく影を入れていきます」と先生。あえて見せたい対象以外の場所に影を作り、読者の視線を誘導するスゴ技です。

第16回

画面作りの達人
佐野愛莉先生
のお楽しみ!!!

色気のある男子の“パーツ”にこそ色気が宿る

梅澤麻里奈先生(2022年15号より)



まつ毛+まゆ毛
視線の向きに合わせたまつ毛が艶めかしい。「眉頭が細く眉尻が太いと、たくましい顔つきに」。



鼻
「男っぽい色気を出すために」正面顔では必ず鼻の穴を。



骨格がわかるシワ
シワで体のラインや筋肉を見せることを意識している先生。「シワを入れたほうが絶対かっこいいです」。



まくるための長袖
袖をまくって色気を醸す。そのために「夏でも長袖しか着せない」んだとか!

その4 色気編

色気男子といえば「次はいいよね、先輩」の峰谷。梅澤麻里奈先生はパーツの細部にまでこだわって色気を表現しています。

初登場シーンはキャラに合わせて演出する

くまがい杏子先生(2022年11号より)

読者が話を読み進めるかどうか大きく影響する、キャラの初登場シーンはとても重要。「キャラによって意識するポイントが変わる」と言う、くまがい杏子先生の演出法は…?



「ヒロインは可愛さを強調するため1コマ目からアップで見せるのに対し、ヒーローは行動を伴う引きのコマから入ることが多いです。タメを作って期待感を煽り、かっこよさが伝わるよう行動を見せます」

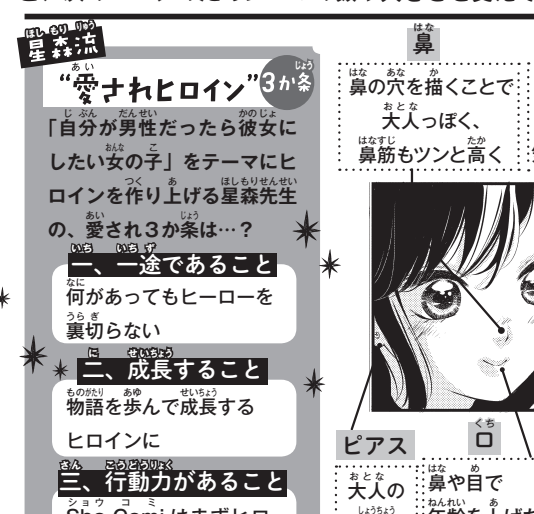
「読みやすいスクエアなコマの連続が基本」と言うのは青春ヘビーローテーションの水瀬藍先生。しかし、そんなスクエアなコマに型破りなコマを散りこめることで、とある視覚効果が得られるとも言います。「まんがって、ある程度は読み飛ばされるものだと思うので、フラットな流れの中に型破りなコマという、引っ掛かりを作り、視線が止まるようにしています。止まらずとも状況の変化が印象付けられて、物語やキャラへの理解度が上がります」と先生。視覚効果が生じる、変形コマの入れ場所もしっかり覚えておいて。



めくり めくりのコマ(ページをめくらせるための左ページの右下のコマ)に小さな変型コマを入れることで変化を印象付け、次のページへ進ませる。

コマ割りの達人 スゴ技

コマの数や大きさは、次のページで決まる。水瀬藍先生は「次のページをどう気持ちで読んでほしいか考えて」コマ割りしているんだそう。「大コマの見せ場の前はコマを小さく、見てほしい場面があるときは直前にセリフのみのコマを入れるなど、次のページのためにコマの数や大きさを変えています」。



「愛されヒロイン」3か条
一、一途であること
二、成長すること
三、行動力があること
Sho-Comiはまずヒロインから行動!

コマ割りの達人 スゴ技

視覚効果が生じる
コマの使い方



気持ちが動いた瞬間
激しい感情の揺れを動きのあるコマで表現

その1 コマ割り編

ページの中でどうコマを割るか。読みやすく、かつ物語を盛り上げ読者を引き込む、計算され尽くした達人のコマ割りテクをご紹介します!

ラブシーンの達人 スゴ技

ラブシーンには無駄こそが必要。『少年ブラキッド』で濃密なラブシーンを魅せてくれる蜜樹みこ先生。まんがは無駄を省いていく作業が大半ですが「ラブシーンに関しては無駄を入れる必要がある」と先生は言います。「1コマで済むところを数コマかけて描くことで、スローモーションのような余韻が出せます」。読者の読むスピードをコントロールして期待値を高める、見事なコマ割りです。



▲愛撫を細かく刻んで描くことで、読者もヒロイン・麗と同様じらされる感覚に!

その2 キャラクター編

少女まんがにおいて、愛されヒロインは絶対条件! 外見でも内面でも読者に「可愛い!」と思ってもらえるヒロインを目指して! 『おとなの初恋』で自身初の大人ヒロインに挑戦している星森柚稀も先生。「ごく小さく描いていた鼻を変えることでかなり大人っぽくなりました」。可愛さを殺さない程度のリアルさという緻密なデザインで、大人可愛い! は実現したのです。

星森柚稀先生(2022年1号より)